



# キャリア教育

研究主題「自立した大人として生きるための資質・能力の育成」

- ①特別活動（短学活、一步前ノート、生徒集会）について
- ②総合的な学習の時間（キャリアパスポートの活用、体験活動・表現活動、GT活用）について
- ③生徒実態アンケート・資質能力自己評価（実施、集計、考察）について



## 特別支援

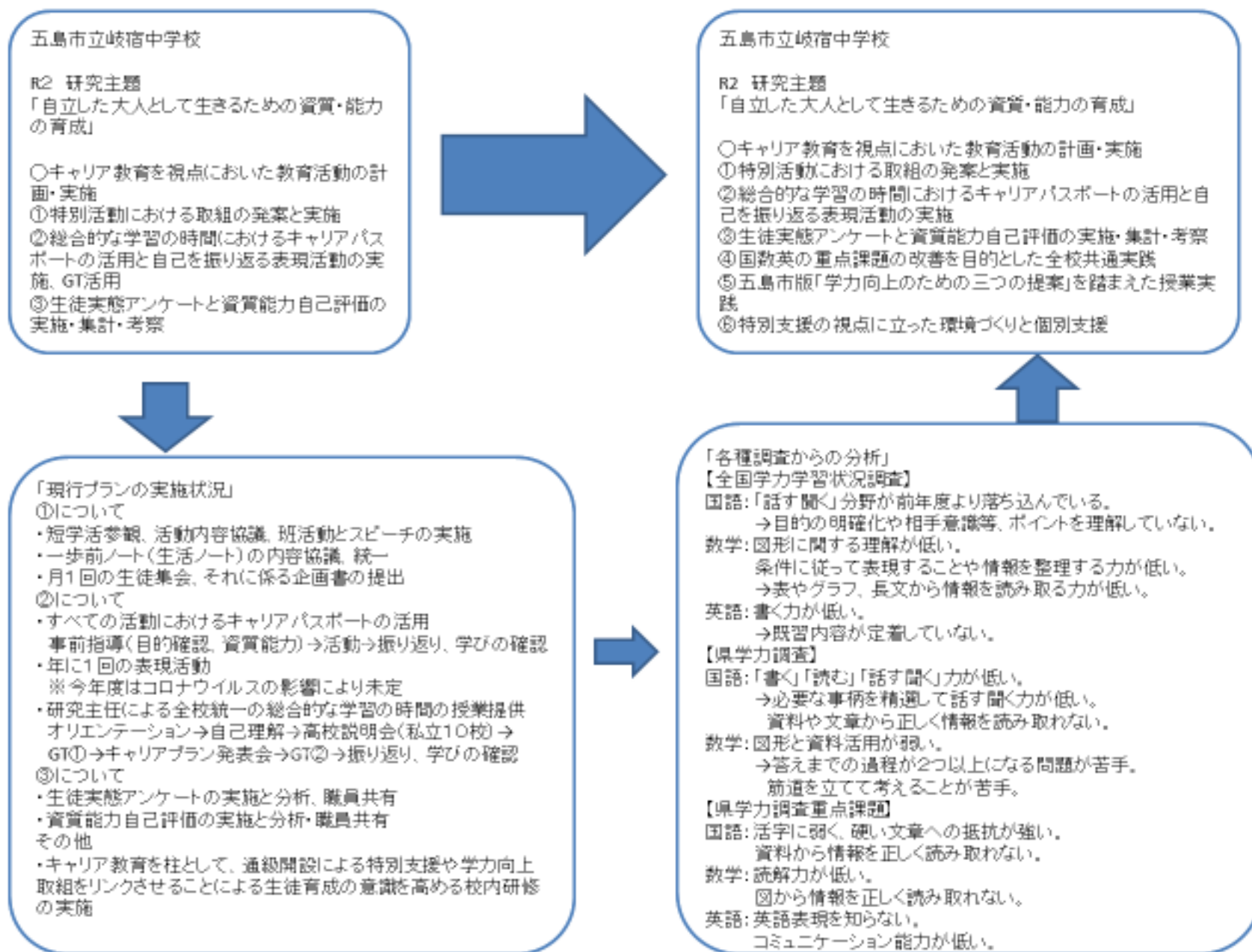
- ①通級開設による個別支援
- ②特別支援の視点に立った環境づくりと授業づくり



## 学力向上

- ①全国学力調査、県学力調査の分析と教科の取組
- ②県学力調査重点課題の改善を目的とした共通実践
- ③五島市版「学力向上のための三つの提案」を踏まえた授業実践

◎キャリア教育を柱とする中で、特別支援の視点をもって学力向上に取り組むことで生徒の変容を図る。



I H31年度 県学力調査・R2年度全国学力調査結果分析結果（経年変化）

<国語3年>

H31年度 県学力調査					R2年度 全国学力調査					
	話す聞く	書く	読む	言語	全体	話す聞く	書く	読む	言語	全体
全国										
県	71.4	63.4	59.9	73.7	67.5	81.5	62.5	64.3	87.8	80.1
五島市	70.5	60.4	57.6	73.7	66.2	84.9	52.8	64.6	87.9	80.0
本校	77.7	60.6	60.9	67.6	66.8	80.4	73.9	63.8	84.2	78.6
市との差	+7.2	+0.2	+3.3	-6.1	+0.6	-4.5	+21.1	-0.8	-3.7	-1.4
前年度比						-11.7	+21.3	-4.1	+2.4	-2.0

<数学3年>

H31年度 県学力調査					R2年度 全国学力調査					
	数と式	図形	関数	資料活用	全体	数と式	図形	関数	資料活用	全体
全国										
県	58.5	48.8	66.9	54.5	57.6	55.4	45.1	50.4	53.3	51.1
五島市	55.2	46.9	66.9	54.8	56.0	59.9	44.7	54.2	50.3	52.2
本校	54.3	53.2	69.9	67.9	59.9	55.4	35.9	47.8	57.6	49.3
市との差	-0.9	+6.3	+3.0	+13.1	+3.9	-4.5	-8.8	-6.4	+7.3	-2.9
前年度比						-3.6	-15.1	-9.4	-5.8	-6.8

<英語3年>

R2年度 県学力調査					○全国学力調査同士の比較ではなく、経年比較として行った。 ・市平均との差を基準にして、各分野での増減を比較している。	
	話す	聞く	読む	書く		全体
全国						
県		62.2	52.9	26.3		48.2
五島市		65.0	53.1	26.3		49.0
本校		60.4	56.3	22.7	48.2	

市との差		-4.6	+3.2	-3.6	-0.8	
------	--	------	------	------	------	--

## Ⅱ 学年別学力調査結果分析

<3年生> R2年度 全国学力（国語・数学）県学力調査（英語）

教科	区 分 (評価の観点)	問題数	平均解答率					
			本校	五島市	長崎県	全国	県比較	市比較
国語	話す・聞く	2	80.4	84.9	81.5		-1.1	-4.5
	書く	1	73.9	52.8	62.5		+11.4	+21.1
	読む	3	63.8	64.6	64.3		-0.5	-0.8
	言語事項	8	84.2	87.9	87.8		-3.6	-3.7
数学	数と式	4	55.4	59.9	55.4		±0	-4.5
	図形	4	35.9	44.7	45.1		-9.2	-8.8
	関数	3	47.8	54.2	50.4		-2.6	-6.4
	資料活用	4	57.6	50.3	53.3		+4.3	+7.3
英語	話すこと							
	聞くこと	9	60.4	65.0	62.2		-1.8	-4.6
	読むこと	15	56.3	53.1	52.9		+3.4	+3.2
	書くこと	9	22.7	26.3	26.3		-3.6	-3.6

<2年生> R2年度 県学力調査

国語	話す聞く	書く	読む	言語	全体	数学	数と式	図形	関数	資料活用	全体
県	70.3	48.1	52.2	71.3	62.4	県	54.9	44.6	53.6	43.6	49.2
五島市	72.0	49.1	54.9	69.5	63.0	五島市	57.4	49.3	54.8	44.8	51.7

本校	61.0	40.0	40.0	65.1	53.7	本校	60.0	48.0	55.0	44.0	52.0
市との差	-11.0	-9.1	-14.9	-4.4	-9.3	市との差	+2.6	-1.3	+0.2	-0.8	+0.3
R3 年度目標	-8.0	-6.0	-11.0	±0	-6.0	R3 年度目標	+5.0	+2.0	+3.0	+2.0	+3.0

### Ⅲ 具体的方策 1 教科担当者の取組（校内研修 8 月実施内容）

#### 【3 年生】

国語	課題	・「話す聞く」分野が前年度の市比較から 11.7 ポイント落ち込んでいる。	
	考えられる要因	教科として取り組む対策	
	①国語科授業において、前年度数値の低かった「書く」「言語」の活動に重点を置いた指導を行ってきた。 ②話す・聞く目的を明確にすること、相手意識を高めることといった、話す・聞くポイントを理解していない。	①書く・読む分野の学習活動の中でも、話す・聞く場面を仕組む。 ②話す・聞くポイント等を、1 年次学習から復習する時間を設ける。 ③短学活の 1 分間スピーチ等の時間を活用し、話す・聞く機会を増やす。 ④各種テストにおいて、話す・聞くに関する問題を出題する。	
数学	課題	・図形に関する理解が低い。 ・条件に従って表現することや与えられた情報を整理する力が低い。	
	考えられる要因	教科として取り組む対策	
	①表やグラフの表していることを理解することが苦手。 ②長い文章から必要な情報を取捨選択することが苦手。 ③領域の学習がつながっておらず、知識が分断されている。	①表やグラフを用いる場合に、それぞれが表している事柄に注目させる発問をする。 ②記述問題を出題するときは、「～は…である。」のような条件をつけた問題を作成する。	
英語	課題	・「書くこと」が正答率 22.7%と低く、市と比較しても -3.6 ポイント低い。	
	考えられる要因	教科として取り組む対策	
	①自分のことや考えについて、英文を書く活動が十分でなかった。 ②過去に学習した内容を忘れている。 ③問われていることを既習表現で書けない。	①弾丸インプットに 1 日 5 分程度の時間をとり、覚えさせる。 ②和文英訳テスト等を適宜行い、文型を覚えさせる。 ③英検問題や GTEC 問題を使い、自分のことや身のまわりのことについて表現する場を設ける。	

	④ALT に協力してもらい、英作文の添削を行い、様々な表現を身につけさせる。
--	--

【2年生】

国語	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書く」「読む」分野の正答率が40.0%と低い。</li> <li>・「話す聞く」分野が市との比較11.0ポイント低い。</li> </ul>
	考えられる要因	教科として取り組む対策
	<p>①話すべきことや聞くべきことを意識して、必要な事柄を精選しながら話したり聞いたりすることが苦手。</p> <p>②資料を活用し、根拠を明確にして書く問題が苦手。傾向として、以下の点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件が増えるごとに正答率が下がる。</li> <li>・条件を把握していない。</li> <li>・条件にとらわれて、問われていること（書くべきこと）を見失っている。</li> <li>・資料から正しく情報を読み取れない。</li> </ul> <p>③話（文章）の内容を捉えることが苦手。</p>	<p>①話す・聞くことを明確にして活動する場を、授業の中に仕組む。</p> <p>②資料読み取りの機会を増やし、情報を正しく把握できるようにする。</p> <p>③資料を使った条件作文の問題を各種テストに盛り込む。</p> <p>④簡易な文章を要約したり、文章で授業内容をまとめたりする時間をつくる。</p>
数学	課題	・図形と資料活用の分野がやや低い。
	考えられる要因	教科として取り組む対策
	<p>①手順や式の成り立ちを説明することが苦手。</p> <p>②操作や計算までの過程が2つ以上必要になる問題が苦手。</p> <p>③筋道を立てて物事を考えること、結論を導くまでのプロセスを考えることが苦手。</p>	<p>①説明する活動を増やし、その際は手順と考え方のどちらなのかを明確にさせる。</p> <p>②わかっていることと知りたいことを明確にさせてから、解決までのプロセスを意識させる。</p>

#### IV 具体的方策2 校内研究としての取組（全職員）

##### 【五島市版「学力向上のための三つの提案」を受けての共通理解事項】（校内研修6月実施内容）

###### （1）子どもに届く「めあて」の設定

###### 見通しにつながる「めあて」を設定するために

- ①解決すべきことを絞る。（何を解決すれば単元の目標を達成できるのか）
- ②文末を適切にする。（「思考・判断・表現」「知識・技能」「学びに向かう力」のどれを目指すのか）
- ③表現の仕方を工夫する。（学習活動の目的や手立てを盛り込む）
- ④その他
  - ・ 毎時間、板書する。
  - ・ 生徒との対話中での言葉を使う。
  - ・ 難解な言葉でなく、生徒が理解できる表現にする。
  - ・ 教科書等のページ数を板書する。
  - ・ 授業の流れを黒板等に提示する。

###### （2）子どもに届く「まとめ」の設定

###### 内容の定着を図る「まとめ」を設定するために

- ①まとめ方のビジョンをもつ。（一つの結論を導くのか。個々の考えに委ねるのか。）
- ②「めあて」と「まとめ」は対応させる。
- ③対話をもとに、生徒の発言を取り入れる。
- ④本時のキーワードや学習用語を用いる。
- ⑤家庭学習に取り組める課題につなげる。

##### 【長崎県学力調査結果の概要〈速報版〉を受けての重点課題への取組】（校内研修10月実施内容）



## 長崎県学力調査結果

	重点課題	県平均正答率	本校正答率
国語	複数の情報を整理し、条件に合わせて書く	48.8	20.0
数学	条件を変えた場合について数学的に説明する	26.0	16.0
英語	適切な表現をする	8.2	4.0

### (1) 重点課題の力が低い、考えられる要因

※数学科については、重点課題の正答率が県より 12.9 ポイント高いため、「条件を変えた場合について数学的に説明する」について協議。

【国語科：「複数の情報を整理し、条件に合わせて書く」】

- ・ 活字に弱く、文章を読むことに対する抵抗が強い。
- ・ 資料（表、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、図）から情報を正しく読み取ることができない。

【数学科：「条件を変えた場合について数学的に説明する」】

- ・ 問題文や条件を正しく理解できていない。（読解力が低い）
- ・ 物事を多面的、多角的に考えることが苦手である。
- ・ 図から正しく情報を読み取れていない。

【英語科：「適切な表現をする」】

- ・ 英語表現を知らない。知識として備わっていない。
- ・ コミュニケーション能力が低い。



### (2) 全校共通実践

1 新聞コラム「天声人語」を読む。＝ 活字への抵抗を減らし、硬い文章に慣れることを目的とする。

（毎週火曜日 8:00～8:10、全学年同じコラムを読む。感想は求めない。）

2 ペアによる役割演技を行う。＝ 会話をつなぐ意識を高めることや、場面に応じたやりとりを円滑にすることを目的とする。

（毎週木曜日 8:00～8:10、与えられた場面に応じてペアで会話を交わしていく。細かな点は学年裁量とする。）

(3) 次年度の検討事項

- ・国語科と数学科に共通している要因「資料（表、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、図）から情報を正しく読み取ることができないこと」の改善に向けた取組協議を行う。